

平成 2 4 年度（平成 2 3 年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

平成 2 4 年 1 1 月

様似町教育委員会

も く じ

1	はじめに	1
(1)	点検・評価の概要	
(2)	点検・評価の対象	
(3)	点検・評価の方法	
(4)	点検・評価結果の構成	
2	教育委員会の活動状況	2 ~ 6
(1)	教育委員会による点検 平成 2 3 年度教育委員会定例会・臨時会・書面決議 平成 2 3 年度教育委員協議会 平成 2 3 年度学校訪問・行事関係等活動状況	
(2)	項目別点検 教育委員会会議等 学校訪問について 委員研修会への参加	
3	「平成 2 3 年度の教育行政執行方針」に基づく施策の執行状況の評価... ..	7 ~ 2 6
(1)	総評	
(2)	施策の評価 幼児教育及び児童福祉の推進 学校教育の推進 社会教育の推進 体育・スポーツの推進	
4	外部評価委員名簿	2 7
参考資料		
	平成 2 3 年度 教育行政執行方針	2 8 ~ 3 2

1 はじめに

(1) 点検・評価の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第 27 条において、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

このことを受け、様似町教育委員会では、次のとおり報告書を作成いたしました。当委員会では、この度の点検・評価の結果を次年度以降の事務改善等に活用し、教育施策の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、平成 23 年度教育行政執行方針に掲げられた項目に基づいた主な施策・事業としています。

(3) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、施策・事業の実施状況を明らかにするとともに、今後における課題と対応方向を示します。

(4) 点検・評価結果の構成

平成 23 年度の領域

点検・評価の対象を「平成 23 年度教育行政執行方針」の項目ごとに点検・評価しています。

取組の概要

平成 23 年度に実施した主な取り組み内容を示しています。

実施状況

各取り組みの実施状況を記載しています。

評価

平成 22 年度の取り組みの実施状況などをふまえ、取り組みに対する内部評価と外部評価を行っています。

今後の課題と対応方針

今後の取り組みを進める上での課題と対応の方針を示しています。

2 教育委員会の活動状況

平成23年度の教育委員会の活動について、教育委員会会議・学校訪問などの項目に分け、教育委員会自身による点検を行いました。

(1) 教育委員会による点検

教育委員会会議は、定例会と臨時会からなり、定例会は、2月、4月、6月、8月、10月及び12月に招集し、臨時会は、定例のほかに委員長が必要であると認めたときに招集しています。

なお、臨時急施を要する事務及び軽易な事務については、委員会を招集しないで権限を指定し、書面決議によることができます。この場合においては、委員3分の2以上の同意を得なければ否決されたものとみなされます。

以下、平成23年度の主な活動内容について報告します。

平成23年度教育委員会定例会・臨時会・書面決議

期	日	活 動 内 容
平成23年	4月13日(水)	書面決議
	4月20日(水)	書面決議
	4月28日(木)	定例会
	6月 3日(金)	定例会
	8月25日(木)	定例会
	9月28日(水)	臨時会
	10月12日(水)	定例会
	12月 8日(木)	定例会
平成24年	2月22日(水)	定例会
	3月12日(月)	書面決議

平成23年度教育委員協議会

期	日	活 動 内 容
平成23年	8月25日(木)	(1)児童生徒の遠距離通学費について
	12月 8日(木)	(1)学校給食について (2)様似小学校改築について (3)バス路線・鉄道路線の要望について
平成24年	2月22日(水)	(1)小学校入学後におけるフッ化物洗口調査について(アンケート) (2)平成23年度全国学力学習状況調査について (3)様似小学校改築について

平成 2 3 年度学校訪問・行事関係等活動状況

期	日	活 動 内 容
平成 2 3 年	4 月 1 日 (金)	年度初め職員へ委員長訓示
	4 月 4 日 (月)	幼児センター入園進級を祝う会
	4 月 4 日 (月)	平成 2 3 年度教職員辞令交付
	4 月 7 日 (木)	様似小学校入学式
	4 月 8 日 (金)	様似中学校入学式
	5 月 1 3 日 (金)	日高管内教育委員会連絡協議会
	6 月 5 日 (日)	様似中学校体育祭
	6 月 1 9 日 (日)	様似小学校運動会
	7 月 3 日 (日)	幼児センター運動会
	7 月 7 日 (木)	北海道市町村教育委員研修会
	1 1 月 3 日 (木)	様似町表彰式
	1 1 月 1 4 日 (月)	学校訪問 (様似小学校)
	1 1 月 1 4 日 (月)	学校訪問 (様似中学校)
平成 2 4 年	1 月 8 日 (日)	様似町成人式
	1 月 2 3 日 (月)	子どもの心に響く道德教育推進事業
	3 月 1 5 日 (木)	様似中学校卒業式
	3 月 1 6 日 (金)	様似小学校卒業式
	3 月 2 3 日 (金)	幼児センター卒園式

(2) 項目別点検

教育委員会会議等

ア 議案について

平成 2 3 年度教育委員会会議等につけられた議案等については、次のとおりです。

4 月 3 日 書面決議

番 号	議 件
議案第 1 号	様似町立学校管理規則の一部改正する規則の制定について
議案第 2 号	様似町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について

4 月 2 0 日 書面決議

番 号	議 件
議案第 3 号	平成 2 3 年度就学援助費給与者の認定について

4月28日 定例会

番 号	議 件
議案第 4 号	平成 2 3 年度様似町奨学資金支給対象者の決定について
議案第 5 号	社会教育委員・様似町公民館運営審議会委員の委嘱について
議案第 6 号	様似町図書館協議会委員の任命について
議案第 7 号	様似町放課後子ども教室設置及び管理運営に関する規則の制定について

6月 3日 定例会

番 号	議 件
議案第 8 号	平成 2 3 年度教育費補正予算（第 1 号）について

8月25日 定例会

番 号	議 件
議案第 9 号	様似町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
議案第 1 0 号	平成 2 4 年度小学校使用教科用図書の採択について
議案第 1 1 号	平成 2 4 年度中学校使用教科用図書の採択について
議案第 1 2 号	平成 2 3 年度教育費補正予算（第 2 号）について

9月28日 臨時会

番 号	議 件
議案第 1 3 号	様似町教育委員会委員長の選挙について
議案第 1 4 号	様似町教育委員会委員長職務代理者の指定について

10月12日 定例会

番 号	議 件
議案第 1 5 号	様似町立学校管理規定の一部を改正する規則の制定について
議案第 1 6 号	様似町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について
議案第 1 7 号	様似町郷土館運営審議会委員及び様似町文化財調査委員の委嘱について
議案第 1 8 号	平成 2 3 年度様似町文化・スポーツ表彰について

12月8日 定例会

番 号	議 件
議案第 1 9 号	様似町スポーツ振興審議会条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 2 0 号	様似町スポーツ振興審議会条例施行規則等の一部を改正する規則の制定について

議案第 2 1 号	様似町スポーツ表彰事務処理規定の一部を改正する訓令の制定について
議案第 2 2 号	平成 2 3 年度教育費補正予算（第 3 号）について

2 月 2 2 日 定例会

番 号	議 件
議案第 2 3 号	様似町公民館条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 2 4 号	様似町郷土館条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 2 5 号	町立様似図書館条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 2 6 号	様似町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
議案第 2 7 号	様似町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について
議案第 2 8 号	様似町立学校評議員設置要綱の一部を改正する訓令の制定について
議案第 2 9 号	平成 2 3 年度教育費補正予算（第 4 号）について
議案第 3 0 号	平成 2 4 年度教育費予算について

3 月 1 2 日 書面決議

番 号	議 件
議案第 3 1 号	教職員の任免について
議案第 3 2 号	教育委員会事務局職員の人事について

イ 議事について

教育委員長の開会宣告の後、議案審議前に生涯学習課各係・図書館・幼児センターの順に行政報告を行い、各教育委員による質疑、事務局職員による応答を行っています。

その後、議案の審議に入りますが、議案及び参考資料は、事前に配布していますので、各委員とも問題意識を持った積極的な発言がありました。

学校訪問について

町内の小中学校を訪問し、学校の取り組みについて直接知る機会をもっています。児童生徒の学びの様子や学校の運営方針、施設、教育環境、授業等、学校の抱えている課題などを把握することに努めました。

○平成 2 3 年 1 1 月 1 4 日（月） 様似小学校

内容 授業参観、懇談等

学校経営計画、教職員の資質の向上、危機管理、当面する課題、学校改善プラン

○平成23年11月14日(月) 様似中学校

内容 授業参観、懇談等

学校経営計画、教育課程の編成・実施、教職員の資質の向上、危機管理、
当面する課題、学校改善プラン

委員研修会への参加

○平成23年7月7日(木) 札幌市

第48回北海道市町村教育委員研修会

内容 講話「学校を親学の拠点に！

～発達障害は予防・改善できる～」

講師 明星大学教授 高橋 史朗 氏

フォーラム、事例発表

「三笠市の地域の特色を生かした全国に通じる教育」

三笠市教育委員会教育長

「中富良野町の放課後プラン」

中富良野町教育委員会教育長

「町立農業高校設置と経営の展望」

中標津町教育委員会教育長

3. 「平成23年度教育行政執行方針」に基づく施策の執行状況の評価

教育委員会では、毎年度、教育行政に関する執行方針を議会及び町民に示していますが、その中に盛り込まれた施策・事業の実施状況について自己評価並びに外部評価をしております。

なお、教育行政執行方針については、別紙資料「平成23年度教育行政執行方針」をご参照ください。

(1) 総評

教育行政執行方針に示している事業については、概ね予定どおり実施されています。今まで、教育行政執行方針については、体系立てて振り返っておりませんが、こうして点検・評価することにより、教育委員の意見が次年度の方針決定にいかせると考えます。

平成23年度教育行政執行方針に基づく施策の評価

幼児教育及び児童福祉の推進

領 域	幼児教育及び児童福祉の推進	
取組の概要と実施状況	・子どもが心豊かな人間に育つための育児と教育の援助及び丁寧な保育のための研修会参加と園内研修の推進 ・地域、家庭との連携のための園開放事業や食育に関する事業や園だより発行の推進 ・乳幼児と小学生とのふれあい交流事業の推進 ・幼小連携交流事業の推進	
内部評価	・子どもが心豊かに育つための環境や丁寧な保育のため園内研修の実施と園外研修への参加により、職員間における指導上の共通理解が図られた。 ・地域の特産や仕事や人を知り関わる事で、地域の人との連携や食への関心を持つ事ができるようになり、今後も幼児センターの子どもを住民に知ってもらう機会として続けていきたい。 ・人として「生きる力」を身につけていくためにも、人と関わる機会や喜びを提供できる交流事業として定着してきましたし、楽しんで参加しており今後も続けていく必要があります。 ・子どもたちが、幼稚園から小学校へのスムーズに移行ができるように今後も小学校と連携を密にした交流を図って参ります。	評 価
		B
外部評価	・園だよりの発行において各事業や行事内容が大変分かりやすく地域に情報提供されていたり、小学生とのふれあい交流や高齢者と園児とのふれ合い、高校生の職場体験等や住民との交流が積極的に行われており、取り組みと実施状況は大変良いと思います。	評 価
		B

	・「生きる力」を身につけていくための交流事業以外の実践が具体的に分かりづらく思います。 ・定期的な個人面談や父母全員との面談を今後も望みます。 ・幼児保育（教育）の基本理念・方針・目標に基づき、具体的な運営計画のもとに大変良く実践されていると思います。	
今後の課題 と対応方針	・多様化する子どもと子育てに対応できるよう、今後も職員の研修や研究会等への参加が必要。 ・地域や家庭との連携のための事業も今後取り進めていき、地域や家庭とが子育てをしていける幼児センターに近づけていきたい。	
特記事項		

領 域	児童福祉（子育て支援関係）	
取組の概要 と実施状況	・子育て支援センターだよりや生涯学習プラスワンなどへの情報提供。 (月1回) ・子育てサロン(週3回) 親子で体験(月に1~3回) 食育・季節の行事や製作活動 ・子育て講座開設(2回) ~ 講師(歯科衛生士、保健師) ・子育てボランティア養成講座の開設。(10月~11月夜間の計22時間) ・子育て相談(訪問・面談) ・乳幼児健診(おでかけサロン: 年9回) ~ 乳幼児の預かりやサロン紹介。 ・お父さんと遊ぼう(年1回) ・要保護対策協議会立ち上げにより、支援者としての協力。 ・放課後児童クラブ(週1回) ~ 児童や職員への相談支援。	
内部評価	・子育てサロンを、週3日間(火・水・木)開設にしたことで、参加人数も増加。乳幼児健診などで顔を覚えてもらい、サロン参加へと繋げていったことも増加の要因と考えられます。 ・『お父さんと遊ぼう』は、日曜日開催にしているが、今年度も参加者がいないことから対応策が必要であります。 ・要保護対策協議会立ち上げにより、要支援者のために各関係機関と協力しながら、支援体制が作られつつあります。	評 価
		B

外部評価	・サロン開設を増やし、参加人数を増やしている事は、細やかな取り組みが効果を上げていると思う。 ・センターだよりによって事業内容が分かりやすく、情報提供されている。 ・お父さんと遊ぼうの事業としての努力はされていると思うので、無理をせず、父母と遊ぼうでも良いのではないかな？ ・子育てボランティア養成講座が再び開設されたことは大きく評価したいし、2年3年と継続する事が望ましい。 ・親として子どもが園でどのような生活（遊び）をし、仲間そして保育者と関わっているか、何よりも知りたい事だと思います。「子育てサロン」「お父さんと遊ぼう」等子ども達を家庭・地域そして皆で育んで行こうという取り組みだと思いますが、職員（保育者）には本来の子どもの保育と合せて、子育て支援、児童クラブと大変でしょうが、将来を担う子どものために一層のご奮闘をお願いします。	評 価
		A
今後の課題 と対応方針	・現在、幼児センターの空き教室（午前のみ）を利用しているので、子育てサロン専用の部屋があると、親たちの憩いの場所として、開所日数の増加が見込まれます。 ・出産後すぐに支援を必要とする母子のために、保健師と一緒に新生児訪問に同行して行きます（顔馴染みとなり、支援に入りやすくするために） ・子育てボランティアサポートの増員のために、次年度も養成講座を開設して参ります。 ・子育て講座について、内容の充実と参加アピールをして行きます。 ・「お父さんと遊ぼう」の参加者がいないこともあり、お父さんのみに限定せず、お父さんも一緒に参加しませんかとアピール変更して取り組みます。	
特記事項		

領 域	放課後児童対策
取組と概要 と実施状況	様似小学校の空き教室を活用し「親子岩放課後児童クラブ」として保護者が就労その他で家庭に不在の場合の小学校1年生から3年生までを統括指導員1名、指導員3名体制で放課後児童の対策事業を実施している。

	・開館時間 平日 月曜日～金曜日 放課後～午後6時 土曜日、夏・冬・春休み期間中 午前8時30分～午後6時 ・年間行事 クリスマス会等	
内部評価	子育て支援の担当相談員と指導員の連携により、子どもの変化や問題点などを早期発見し、問題等の解消を図るとともに子どもの自主性や社会性を養い、保護者が不在の家庭の子どもに安全な生活の場を提供することにより、子どもの健やかな生活に寄与することができた。 登録者50名。年間開設日281日。 年間利用者は延べ6,649人。 利用者数平日で29人、 土曜日で5.6人。	評 価
		B
外部評価	・保護者不在家庭の子供たちに居場所を提供するという事で、ぜひとも継続して行ってもらいたい事業。 ・今後就労したい保護者や利用状況が地域や利用していない家庭にも伝わる情報提供をしてもらいたい。 ・今後とも安心できる場所の提供をお願いしたい。 ・児童クラブは就労など日中不在となる家庭にかわって子どもの放課後安心のできる生活の場として、子ども仲間がいて、指導員がいて、親にとっては子どもへの不安解消となっていることと思います。	評 価
		B
今後の課題 と対応方針	児童クラブの利用に対する情報発信、啓発活動をはじめ、子育て支援と親子岩児童クラブ指導員の指導員及び関係団体等との連携を密にし、子どもの変化や問題点などの早期発見、自主性や社会性をはぐくみ安心して子どもを預けることができる場の提供に努めていきます。	
特記事項		

学校教育の推進

領 域	楽しく学べる学校教育の推進	
取組の概要	・ 確かな学力の向上をめざす学力・学習状況調査の取組 ・ 豊かな心を育む道德教育、特別活動取組 ・ 健やかな体を育てる体力づくりと好ましい生活習慣の取組 ・ 教職員の資質や能力向上を目指す教職員研修の推進 ・ 指導主事を配置し、各学校への支援体制の強化 ・ 指導方法工夫改善による少人数指導教員の加配に伴う指導の取組	
実施状況	・ 「全国学力・学習状況調査」(希望調査)を小学校の第6学年、中学校の第3学年で実施しました。 ・ 町独自に実施する各小中学校における標準学力調査を実施しました。 ・ 各小中学校では、自校の分析を行い、学校改善プランを作成しました。 ・ 各小中学校では、豊かな心を育むため特別活動において、全学年で交流する活動を行っています。 ・ 学校の教職員を対象とした「初任者研修」「10年研修」など道教委が主催する専門研修に積極的に参加しました。 ・ 北海道立教育研究所と連携した「様似町ミニ道研(地教委連携セミナー)」を夏季休業期間・冬季休業期間中に実施しました。 ・ 少人数指導教員の加配により、小学校では国語と算数を、中学校では数学の授業において習熟度別指導及び個別指導を行うなど、きめ細かな指導を行いました。	
内部評価	・ 全国学力・学習状況調査や標準学力調査結果を踏まえ、各小中学校では、調査結果を分析し、次年度の学校経営方針、重点項目、研究課題へ反映しています。 ・ 各種の教職員研修の実施により資質の向上が図られました。	評 価
		B
外部評価	・ 学力に関して、特に算数は基本的な計算、割合、時間と距離と速さの関係などに課題があると思う。 ・ 学力の低下は常々言われていることだと思う。難しいとは思いますが、将来自分は何をしたいか、どんな人になりたいのか、夢を持てるように問いかけて、子ども達の意識が高められることを望む。 ・ 授業参観の様子を見ていると先生方が色々と資料作りをして授業が解かりやすくできるように努力していることに感謝するが、1クラスの人数が多いためか目が届かない部分も感じられる。	評 価
		B

	・研修・セミナー等に参加し、その後、現場でいかに成果が出ているのかの検証がなされているのかが疑問。 ・小中学校の授業がスムーズに成り立っている様子がうかがえる。 ・児童の挨拶がこの頃自然にできるようになりつつある。 ・ＴＴが少しずつではあるが当たり前の授業として定着している。先生にとっても２人での授業は協調性や柔軟性が身に付く良い機会と考える。	
今後の課題と対応方針	・積極的に実施されている校内研究が、児童生徒の学力の向上に結び付いたものになるよう一層の工夫改善が必要です。	

領 域	児童生徒指導についての取組	
取組の概要	・いじめや不登校などの実態把握調査の実施 ・生徒指導体制の充実強化	
実施状況	・いじめの実態把握は、児童生徒のアンケート調査や聞き取りを中心に行っているほか、いじめをはじめ不登校などの生徒指導上の諸問題についても校内委員会を通じて全教職員で共通理解を深め対応しています。 ・各小中学校は、教育相談の開催を通じ実態把握に努めています。 ・日常的な教育相談活動を充実し、児童の悩みや問題行動の早期発見に努めています。	
内部評価	・各小中学校は、全教職員での情報共有と指導の徹底を図り早期解決に取り組んでいます。	評 価
		B
外部評価	・家庭内で問題になることがないのか少々気になる。 ・悩んでいる生徒が先生になら話せる、話を聞いてもらえると思えるような学校であってほしいと願う。 ・現在は、小学校も中学校の荒れている様子もなく安心している。 ・各々の学校での情報共有も幼小中の連携をより充実させ活かしてください。	評 価
		B
今後の課題と対応方針	・いじめは絶対に許されないという教職員の共通理解と、常に早期発見・早期解決に努めることが必要です。	

領 域	特別支援教育についての取組	
取組の概要	・校内体制の整備 ・家庭・福祉・医療関係機関との連携 ・様似町就学指導委員会の開催	
実施状況	・小中学校において在籍の校内コーディネーターや校内委員会の設置など組織的な体制の充実が進められています。 ・個別の教育指導計画を作成しています。 ・北海道立特別支援教育センターが実施する巡回教育相談の活用を図りました。 ・様似町就学指導委員会を 1 1 月に開催しました。	
内部評価	・特別支援教育について、各関係機関と連携し調査検討することができました。 ・巡回教育相談により、対象児童の保護者や各学校への細かな指導ができました。 ・就学指導委員会の開催により、対象児童の保護者や各学校への細かな指導ができました。	評 価
		B
外部評価	・LD・ADHD等のことについて余り知る機会もないので、専門の方からの話し等を聞いてみたい。保護者の方や地域の方もLD・ADHD等を知ることでお互い住みよい社会になると思う。 ・繊細な部分の多い問題だが、多方面の分野における連携がもっと必要かと思う。 ・様似町は特別支援教育に力を注いでいると感じる。 ・これからは支援を受ける児童も増えるのではと考える。町民の方の介助員など保護者にとってもありがたい。 ・情緒と知的ともに専門的知識のある方が常勤されると先生達も何かにぶつかったり、悩んだりしたときに大きな戦力となるし、保護者も相談しやすいと考える。	評 価
		B
今後の課題と対応方針	・特別支援教育の推進に当たっては、LD・ADHD・高機能自閉症等を含む障がいのある児童生徒の理解や指導・支援体制の整備について、保護者や地域の人々に対して理解を深めてもらう取組が必要です。 LD = 学習障害のこと。基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指す。 ADHD = 注意欠陥/多動性障害のこと。年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたす。	

社会教育の推進

領 域	少年教育	
取組の概要 と実施状況	・ 少年少女宿泊研修(ウィーエンドスクール) 小学3～6年生を対象として、週末や長期休業中に集団での生活体験を実施する。夏＝日高山脈国定公園 30 周年記念事業により十勝管内中札内でのキャンプ11人。秋＝生涯スポーツ研修センター泊 22人 ・ 子ども文化クラブ 町内の文化団体や指導者の協力を得て、子どもの文化活動を支援する。 内容は「ダンス」「かるた」「将棋」「バンド」。 延回数 158 回・参加者数 延 2,677 名。 ・ なんでも体験くらぶ 小学4～6年生を対象にさまざまな体験学習を夏休みに実施。(アポイ太鼓体験等)全2回 参加者数 延 34 名 ・ 派遣事業 「ジュニアリーダーコース」(足寄町)に中学生2名を派遣。 「少年の主張」日高地区大会に中学生1名を派遣。 ・ 団体事業の支援と共催事業の実施 子ども会育成連絡協議会との共催事業「あそびの広場」開催。 団体主催の「キャンプ大会」・「凧づくり」を支援。 様似町子どもセンター事業「あそ部」への支援。 アポイ岳ジオパーク推進協議会との共催事業の実施。 ・ 親子事業の実施 小学生未満の親子を対象に様似小プールで「親子プールDE水あそび」を実施。	
	・ 少年少女宿泊研修(ウィーエンドスクール) 子どもたちが共同生活を通じて「生きる力」を育む体験事業として定着しているが、近年、参加する児童の学年に片寄りも見受けられました。 ・ 子ども文化クラブ マンネリ化した事業や参加者の少ない事業については見直す必要があります。 ・ なんでも体験くらぶ 昨年まで子どもたちの放課後の居場所づくりに役立てられましたが、平成23年度から「放課後子ども教室」として実施。 「体験くらぶ」として実施しましたが、参加者が少なく見直しの必要があります。	評 価 A
内部評価		

	・派遣事業 ジュニアリーダーコース参加後の人材活用場なく、今後の検討課題です。 ・団体事業の支援と共催事業の実施 子ども会育成連絡協議会への事務局としてサポート体制を従来から行っているが、組織そのものの主体性と自立が必要と思われます。 ・親子事業の実施 これまで、小学生未満を対象にした事業がなかったため、本事業のより良い内容を検討しながら継続していきたい。	
外部評価		評価
		A
今後の課題と対応方針	・地域の特性を生かした事業展開が必要と思われますことから、アボイ岳ジオパーク推進協議会との共催事業をすすめる必要があります。 ・健全育成の視点に立った、自主的に行動できる基本的なマナーを養うことが必要であります。また、少子化に伴い、各種事業への参加者の減少が見受けられるが、地域の実情を考慮した事業展開の在り方を工夫、検討する必要があります。 ・町子連については、自治会青少年部との連携を図る必要があります。	

領域	成人教育(青年・女性含む)
取組の概要と実施状況	・社会教育委員会議の開催 ・生涯学習講座 英会話教室(全31回、参加者数延255名)、IT(パソコン)講座(全6回、参加者数延72名)、絵てがみ教室(全4回、参加者数延104名) ・青年教育 成人式を実施する際の実行委員会として「はたちのつどい」を実施しています。 また、青年団体活動を支援しています。(全町クリーン作戦) (バンド・フェスティバル)の実施。 ・女性教育 女性団体の事業について町内一般に案内をして女性活動について理解を求める事業を実施しています。(女性大会)(フリーマーケット)また、女性団体活動を支援しています。

内部評価	・生涯学習講座 生涯学習講座は、町内の人材を講師やボランティアスタッフとして活用できています。(様似高校の協力、英語指導助手の協力など) ・青年教育 成人式、成人祭は、新成人の役割分担等も行い、スムーズに実施できています。 町内の青年層への関わりが積極的に行われていませんでした。 ・女性教育 各自治会での女性部の位置づけが違うことから、女性関連の町内活動を行う上で課題となっています。	評 価
		B
外部評価		評 価
		B
今後の課題と対応方針	・生涯学習講座は、地域住民のニーズに対応した新規事業の展開を工夫する必要があります。 ・町内青年層の求める事業の在り方を模索し、積極的に関わっていく必要があります。 ・町内女性層の求める事業の在り方を模索し、女性団体と連携した中で積極的に関わっていく必要があります。	

領 域	高齢者教育	
取組の概要と実施状況	・各老人クラブの例会にあわせて各種の高齢者教室を開催(交通安全教室 9 回・健康教室 7 回・食の健康教室 6 回・防災・防火教室 7 回) ・合同学習会 2 月 1 5 日 200 名 ・文集「福寿草」の発行(年 1 回) 投稿者 6 名 1 9 ページ ・町内全域を対象に募集を行い、年間を通じて学習活動を行う「きらめきサークル」を月 2 ～ 3 回実施しました。 全 1 2 回 延べ参加者 113 名	
内部評価	・高齢者教室は町職員の連携を図った各種教室を実施することにより、各分野の高齢者への教育的効果が得られています。 ・合同学習会は事業の恒常化が見られ改善が必要と思われます。 ・きらめきサークルについては、いろいろなプログラムを実施することにより、高齢者へ幅広く興味を引くことで、新たな活動へのきっかけづくりになると思われます。	評 価
		B

外部評価		評 価
		B
今後の課題 と対応方針	・各地域の老人クラブによって活動に差があり、活動を休止するクラブもあるなど、老人クラブ担当課と連携し、事業の展開を図る必要があります。近年、老人クラブへの加入率の低下が見受けられることから、老人クラブの例会に依存した高齢者教室の在り方を見直す必要性と、老人クラブに属さない高齢者のニーズを的確に把握した事業の展開が必要です。	

領 域	芸術文化	
取組の概要 と実施状況	・幼児、児童、生徒・一般町民への芸術文化鑑賞機会の提供 ・自主的に活動する文化団体への活動支援 ・芸術文化の鑑賞事業 - 幼児向け～「森の音楽会」 - 芸術鑑賞事業 小学校～「ふしぎの森のヤーヤ」中学校～「夏の庭」 - 町民向け～「阿部貞夫版画展」「南 健雄作品展」 ・様似町文化祭芸能発表会への協力など、文化団体の自主活動を支援しました。 ・ダンスフェスタ in サマニ 2011	
内部評価	・芸術文化に触れる機会の少ない幼児、児童、生徒に対して、芸術鑑賞事業として重要な役割を果たしていると思われます。 ・町民による自主的な文化活動を積極的に進めることができました。	評 価 A
外部評価		評 価 A
今後の課題 と対応方針	・一般町民への芸術文化の普及と理解を積極的に推進していきます。また、今後一層、高齢化社会に向かう中で、文化・芸術といったものが生きがいとして重要であり、各種の文化活動と生涯学習をどのように結びつけていくかが、今後の課題です。	

領 域	郷土館・文化財	
	・文化財の保護と活用 - アポイドリームプロジェクト「花のアポイをもう一度」(講演・実習) - アポイ岳の高山植物を増やしていくための方法について講演会と試験栽培実習を行う事業	

取組の概要 と実施状況	・ふるさと文化セミナーの実施 「アポイ岳と道内各地で行われている希少植物保全の取り組み」 全道各地での希少植物保全の取り組みについて、その事例などから自然の在り方を考え、自然を生かし守っていくかを考える講演会。 ・郷土史学習機会の提供 ふるさと歴史再発見「出土品から語る約 5000 年～7000 年前のさまに」 町内で出土した土器等の状況から 5000 年～7000 年前の様似町の様子はどのようなであったかを考える講演会。 「様似山道歩こう会」 1799 年(寛政 11 年)、幕府によって開削された様似山道を歩き、200 年前の歴史を感じ、巨木・古木などを見て歩きながら、当時の人々に思いを馳せる事業。 ・郷土館運営審議会の開催	
内部評価	・ふるさと文化セミナー、ふるさと歴史再発見の実施により、町民の郷土史や自然環境の変化などの理解が深まりました。	評 価
		A
外部評価	・事業等についての評価は A であるが、郷土館資料の保管方法や文化財保護の観点から災害時の郷土館等について問題がある。	評 価
		B
今後の課題 と対応方針	・事業実施にあたっては参加者が同一化の傾向にあり、今後、一般町民が参加しやすい事業の展開を工夫し、郷土史等への理解を深めてもらう必要があります。また、郷土館の利用促進を図る中で郷土資料の更なる活用を図る必要があります。 ・町民が文化財の現場に足を運んでもらえるような事業展開の工夫と広く周知を徹底する必要があります。 ・文化財保護の観点から災害時の郷土館等について検討する必要がある。	

領 域	社会教育関係団体の支援
取組の概要 と実施状況	・町内の社会教育団体への補助金の交付、各種研修会への参加奨励（バス運行職員同行など）団体の事業運営の支援と指導助言 ・様似町青少年育成協議会 ・様似町子ども会育成連絡協議会 ・様似町青年団協議会 ・様似町女性団体連絡協議会 ・様似町 PTA 連合会 ・様似文化協会

内部評価	・社会教育関係団体へ活動支援することにより自主、自立した事業運営がされている団体と未だに行政に依存した主体性に欠ける団体が見受けられます。	評 価
		B
外部評価		評 価
		B
今後の課題 と対応方針	・補助金の交付は今後さらに厳しさを増してくると思われますが、各団体の創意工夫で事業内容を精査し、活動を継続できる体制づくりに努める必要があります。	

領 域	学習相談・学習情報提供	
取組の概要 と実施状況	・日常的に電話や個別面談等に対する学習相談に対応しています。 ・学習情報については、「生涯学習得徳情報プラスワン」を毎月発行し自治会全戸配布する中で教育委員会や関係団体の事業等を情報提供しています。また、社会教育施設内でのポスター掲示・チラシや冊子等の配置、自治会への事業周知用チラシの配布や新聞折込み、町広報への記事掲載、インターネットホームページを活用した情報提供等を行っています。	
内部評価	・学習相談に関しては町民からの問い合わせ件数が少なく、今後の相談体制の在り方を模索すると共に、町民への周知徹底等を図る必要があると思われる。 ・毎月の広報紙へ生涯学習課の関係する事業と毎月、教育委員会で発行する情報紙を定期的に発行し、全戸配布することにより町民への情報を広く提供することができました。	評 価
		B
外部評価		評 価
		B
今後の課題 と対応方針	・各種の学習相談に対応するための専門的な知識を得る必要があります。 ・主に広報紙活用の情報提供であるため、内容の全てを伝えることが課題である。町ホームページの活用も加えながら、町民に伝えたい情報を的確に提供していくことが必要です。	

領 域	学校支援		
取組の概要 と実施状況	・平成 23 年度学校支援地域本部事業		
	様似小学校～学習菜園整備	4月26日～5月9日	延12名
	様似小学校～プール清掃	6月24日	5名
	様似小学校～花壇整備	6月28日～9月1日	延10名
	様似小学校～図書整理支援	4月26日～29日	延31名
	様似小学校～総合学習支援	2月17日～3月14日	延63名
	様似中学校～校外整備	6月22日	45名
	様似高校 ～学校祭音響支援	7月16日～7月17日	延 3名
	その他各種支援	12月12日～2月15日	延 6名
内部評価	・本年度より教育委員会が主体となり、学校支援地域本部事業を実施しましたが、小学校から評価をいただいている反面、学校側の支援ニーズとボランティア登録者の希望とが一致しないこともあり、学校との連携をより一層深めてすすめて行く必要があります。	評 価	
		B	
外部評価		評 価	
		B	
今後の課題 と対応方針	・より良い学校支援事業の在り方を再検討し、その方向性を学校側と共有したなかでの事業展開を検討していきます。		

領 域	放課後子ども教室
取組の概要 と実施状況	・平成 23 年度学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業 様似小学校空き教室を利用して「四つ葉くらぶ」として開設、子どもたちの放課後の居場所づくりとして小学4年生～6年生を対象に登録制で開設する。(平成 23 年度 登録 46 人) ・開設 244 日間 ・月～金曜日までの下校時から午後 5 時まで ・休日は土・日・祝日・お盆休み・年末年始 ・安全管理員 3 人 協力団体 = 子育てサークル「あいあい」

取組の概要と実施状況	【内容】 ・基本は「自由に過ごす」であるが、指導主事の指導で自主学習も行っている。 ・長期休暇の際は、軽スポーツ、お楽しみ会、各種イベントも実施 ・少年事業へ積極的に参加している。	
内部評価	・子どもたちが安心して放課後の過ごせる場所を提供するという初期の目的は達成できています。 ・参加している子どもたちは、さまざま事業を通して視野を広げることができていると思います。 ・学習の定着も少しずつですがみられています。 ・放課後という開放感もあり、話を聞く態度があまりできていない子どももいます。	評 価 B
外部評価		評 価 B
今後の課題と対応方針	・開設を継続しながら、子どもたちが自主的に学習する力や考え方が身についていけるような運営をめざします。 ・様小改築完了後、児童クラブと同一の場所を実施することとなるため、双方の子どもたちが迷わないよう、しっかりと対応していきます。	

領 域	図書館
取組の概要と実施状況	・情報・資料の充実 資料費は前年度よりやや伸び、それにともない購入冊数も 106 冊と増え、資料全体（図書、雑誌、視聴覚資料）で 1,852 冊となった。 ・貸出サービスの充実 利用者の多様な資料要求に応えるよう、新刊書の購入やリクエストおよび相互貸借による資料提供を行っている。町民 1 人あたりの貸出冊数は前年度 5.8 冊から 5.1 冊へと減少し、前年度よりも大幅な冊数減となった。 ・レファレンス業務の利用拡大 リクエスト件数が前年度より 148 件減少し、年間で 628 件となる。 迅速なる回答業務を心がけ、日々の多様な質問に対応してきてはいるものの、レファレンス件数は昨年よりやや減少し、514 件にのびた。 ・視聴覚ホールの利用促進 施設の利便性と図書館の視聴覚資料との相乗効果をあげるよう視聴覚ホールの利用促進をうながしているが、前年度よりもわずかに及ばず、利用件数 118 件、利用人数 1,478 人となる。

	・子どもの読書活動の推進 おはなし会等、学校との連絡会議、読書まつり、子ども一日司書などの事業を行い、子どもの読書活動を支援。 ・利用の啓発と PR 活動 月 1 回発行の「図書館だより」、毎月実施の資料展示コーナー、月 1 回発行の「新着図書案内」、さらにインターネットを通じた資料情報の提供を行っており、利用の喚起をうながしている。 ・図書館協議会の開催	
内部評価	・資料サービスは前年度よりも一般書・児童書ともに減少傾向を示している。主に団体貸出の分が減少の原因と思われるが、全体として利用の底上げが十分に発揮できていない。 ・視聴覚ホールの利用については、図書館主催の行事や定期的な団体利用があり、自主的に行われている文化活動への支援の一つとなり定着していきいていると思われる。しかしながら、よりいっそう利用促進が求められる。 ・インターネットを通じた情報の提供や「図書館だより」の発行により、読書への関心や資料要求の増加をうながすよう努め、情報へのアクセスしやすい環境を整えてはいるものの、十分な広がりやその効果が目に見えてこない。	評 価
		C
外部評価	少子化の影響のせいか、利用者(子ども)の数が減っているため、ちょっと残念に思います。とにかく図書館に足を運んでくれるような何かがあればいいですね	評 価
		B
今後の課題 と対応方針	・情報センターとしての役割を認識し、資料費の拡大を行いながら資料を充実させ、特徴ある蔵書構成をめざす。 ・図書館オープン以来、20年経過し、蔵書冊数が増え続けているので、開架書架、閉架書架ともに飽和状態になってきている。書庫の増設が望まれる。 ・町民の読書活動や文化活動を支援するために、施設整備や条件整備をよりいっそう充実していく必要がある。 ・町人口の減少にともない、図書館の利用人数も減少が続いており、人数に頼るのではなく、サービスの質の向上が求められる。 ・他課との連携により、視聴覚ホールの利用の拡大。	

生涯スポーツの推進

領 域	青少年スポーツの推進「スポーツ機会の提供」	
取組の概要と実施状況	・スポーツ教室の開催（剣道・柔道・ミニバス・バドミントン・バレーボール） 年3次開催（各5回実施） ・スキー教室 スキー協会の指導含めた全面協力により実施。 ・第35回アヒルロードレースの開催 各年代別に3コース設定し開催。 ・スポーツテスト会の開催 少年団員対象に5種目のテストを実施。少年団本部事業への運営協力。	
内部評価	スポーツ教室は剣道・柔道の参加数は少ないが、他教室は減少傾向がみられるが、大方好評に実施され、バレーボール教室の導入により参加拡充が図られ充実した開催となった。アヒルロードレースについては例年並み参加数であったが、直前の雷雨により中止。スポーツテスト会は参加者の意識も年々高まり概ね目的を達成できている。	評 価
		A
外部評価		評 価
		A
今後の課題と対応方針	スポーツ教室は少年団と連携し指導体制を含めた事業展開と指導者の自主的運営を更に促進し、各事業共に児童・生徒数の減少やニーズに合った対応を講じる。また、キッズダンススクールが人気のため、開催時間のブッキング解消が課題である。	
特記事項		

領 域	成人・女性・高齢者スポーツの推進「スポーツ機会の提供」	
取組の概要と実施状況	・町民スポーツの集いの開催（成人対象） 各スポーツ振興会対抗で4種目実施。 ・北海道テニポン選手権大会運営協力（成人対象） *北海道テニポン協会主催。 全道各地から86組172名の選手参加し、町内4会場で実施。 ・トレーニング相談会の運営協力（一般対象）*様似町体育指導委員連絡協議会主催。 専門講師を招き開催。 ・エアロビックダンススクールの開催（一般対象）4回開催。 ・ヤングシニアスクールの開催（高齢者対象）9月～3月期間に25回実施。	

内部評価	町民スポーツの集いは各振興会担当者が選手集め等を精力的に行っている。 テニポン選手権は例年通り概ね好評に実施されている。 トレーニング相談会は個別指導方式で実施し、女性専用日を設定する等参加者には大変好評である。 エアロビックダンススクールは好評に開催された。 ヤングシニアスクールは新規参加者も増え、プログラムサービスとしては参加者自身の健康への意識高揚が十分に図られた。	評 価
		B
外部評価	スポーツの集いは各振興会によって参加者に格差が見受けられる。振興会の枠にこだわらない参加し易い対応が必要ではないか。	評 価
		B
今後の課題 と対応方針	町民スポーツの集いは居住人口減によりチーム編成できない地区もあるため、それらを解消すべく対策が必要であり、各事業で参加者の固定化の解消が必要である。 トレーニング相談会は内容としては好評であるが、個別指導ゆえに人数が限定されるため指導者の増員等予算も含めた対策を講じたい。	
特記事項		

領 域	スポーツ指導者の育成	
取組の概要 実 施 状 況	・ 様似町スポーツ振興審議会の開催 体育行政への諮問機関として会議開催とスポーツ表彰選考を実施。 ・ 様似町体育指導委員（連絡協議会） 各種教室や事業への指導・運営協力を行った。 連絡協議会を組織し自らが会費を募り各種事業を運営・展開している。	
内部評価	スポーツ振興審議会委員は会議において活発に審議されていた。 体育指導委員は教室等には精力的に指導がなされた。	評 価
		B
外部評価		評 価
		B
今後の課題 と対応方針	体育指導委員としての自発的に活動できるような対策が必要である。	

領 域	スポーツ団体の育成	
取組の概要 実 施 状 況	・ 様似町体育協会への助言・協力 ・ 様似町スポーツ少年団本部への助言・協力 ・ 様似町スポーツ振興会（連絡協議会）への指導・助言・協力 様似町体育協会総会は、事務局担当として全面的に運営に関わった。 スポーツ少年団本部は、事務局役員として全面的に運営協力した。 スポーツ振興会連絡協議会を開催し、各種事業を協議検討し開催しました。	
内部評価	各団体ともに現状の中でできる活動を精力的に行った。	評 価
		B
外部評価	協会加盟団体の中には継続が困難な団体があり、何らかの対応が必要ではないか。	評 価
		B
今後の課題 と対応方針	体育協会は財政的に困窮しており、存続自体が危ぶまれる状況であることから、全般的な改善や今後の方向性を見出す必要である。	
特記事項		

領 域	広報・啓発の充実	
取組の概要 実 施 状 況	・ 様似町スポーツ表彰制度の充実 ・ スポーツ安全対策の充実 スポーツ安全協会傷害保険加入促進 様似町スポーツ傷害見舞金制度の充実 ・ スポーツ情報の提供充実 スポーツ表彰は2個人、2団体に表彰した。 安全対策については、スポーツ安全協会傷害保険加入・請求に関わる事務処理指導を行った。 見舞金制度は該当がなかった。 スポーツ情報提供は町広報紙や生涯学習課情報誌等、チラシ新聞折込・学校等を通じて各種事業等の周知を行った。	
内部評価	わかりやすい広報（周知方法）は図られた。	評 価
		B

外部評価	様似町ホームページ活用は可能かどうか検討を。	評 価
		A
今後の課題 と対応方針	将来的にはインターネットを利用した広報・啓発も必要であり、そのための環境を整える必要あり。	
特記事項		

領 域	スポーツ施設の整備充実・利用促進	
取組の概要 と実施状況	・ 様似町スポーツセンターの整備充実・利用促進 ・ 様似町第2体育館の整備充実・利用促進 ・ 様似町生涯スポーツ研修センターの整備充実・利用促進 ・ 観音山スポーツ公園の整備充実・利用促進 ・ 学校開放事業の充実・利用促進 各施設が安全に利用できるよう配慮し、利用者の立場にたった調整を図った。	
内部評価	各施設利用に当たっては調整を図り、円滑に進めることができた。 利用者数は横這いではあるが、利用者の健康促進に寄与できた。 ・ 研修センター外壁修繕、柔道場外壁塗装を施工した。 ・ 腐食が激しかったソフトボール場本部席改修修繕を施工した。	評 価
		B
外部評価	施設の老朽化が目立っており、年次計画による対応が必要である。	評 価
		B
今後の課題 と対応方針	施設の老朽化が激しく、器具等故障による支障も出てきており、耐震対策を含めた大規模な改修が早急に必要である。 ・ スポーツセンターアリーナ床張替や屋根改修が必要である。また外周の損傷も激しく危険要因を解消する必要がある。 ・ トレーニング室の整備充実が望まれる。 ・ 第2体育館雨漏修繕が必要である。 ・ 野球場の地盤沈下が激しく、早急な対策が必要である。	
特記事項		

「平成24年度教育委員会点検・評価」外部評価委員名簿

(領域別)

氏 名	所 属 等
青 悦 祥 文	様似町立あすなろ幼稚園学校評議員
加 藤 みゆき	〃
櫻 庭 浩 美	〃
鈴 木 克 也	〃
森 崎 宗 光	〃
池 田 美智子	様似町立様似小学校評議委員
岡 部 司 志	〃
小 林 弥 生	〃
野 口 妙 子	〃
南 清	〃
鵜 木 健	様似町立様似中学校評議委員
岡 部 美 香	〃
笹 嶋 ひとみ	〃
盛 一 茂	〃
米 田 靖	〃
佐々木 正	様似町社会教育委員（公民館運営審議会委員）
小 林 弥 生	〃
宮 野 京 子	〃
徳 野 秀 博	様似図書館協議会委員
伊 藤 栄	〃
三 角 幸 美	〃
宮 野 晃	〃
能 登 好 子	〃
吉 田 信 之	〃
佐々木 敏	様似町スポーツ推進審議会委員
根 城 悌 司	〃
小 川 勝 己	〃
加 藤 みゆき	〃
大 庭 隆	〃

平成 23 年度 教育行政執行方針

平成 23 年度を迎えるにあたり、新年度に対する様似町教育委員会 所管行政の執行に関する主要な方針について申し上げますので、ご理解とご支援を賜りたいと存じます。

昨年は、北海道日本ハムファイターズに早稲田大学出身の斎藤佑樹 投手の入団、北海道で生まれ育った北海道大学の鈴木章名誉教授のノーベル化学賞受賞という、私たち北海道民にとって嬉しいニュースに接することができました。

一方、一昨年の政権交代により政治や行政のあり方が大きく変化していますが、依然として我が国の経済・財政、雇用、環境に好転の兆しがみえない社会情勢となっています。

このような中、学校教育において、新しい学習指導要領が、小学校は本年度に完全実施となりますし、中学校は平成 24 年度完全実施に向け準備を進めているところであります。

このように教育を取り巻く環境も大きく変化していますが、心身ともに健やかでたくましく、自らの力で次代を切り拓く人づくりを学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割を果たし、相互の連携・協力を一層緊密に育成することが大切であります。

様似町は、恵まれた自然環境や歴史的風土があり、この優れた自然や歴史・文化を教育に生かし、豊かな心を育てる幼児教育、学校教育と生きがいのある人生を築く社会教育及び体育・スポーツの振興を図り、生涯学習社会の実現を目指してまいります。

幼児教育及び児童福祉の推進につきましては

子どもが人間として豊かに育つために、子どもの人権を大切にし、その基礎となる乳幼児期の環境や人との関わりを大切にした保育・教育を目指してまいります。

乳幼児期の発達過程を踏まえ、集団生活の中での遊びや環境を通して、自主性及び豊

かな感性を養い、人との関係づくりや生活習慣の育成など、人間形成の基礎を育ててまいります。

すべての幼児が心身共に健やかな成長を遂げられるよう地域・家庭や関係機関と連携し「子育て・子育て環境」の充実に努めるとともに、より良い教育・保育活動を享受できるよう、職員の資質向上を図り、園運営の状況について評価を行い、その結果に基づいて改善を図ってまいります。

幼稚園と小学校との連携については、交流機会を充実させ、小学校へのスムーズな接続に引き続き取り組んでまいります。

次世代を担う児童生徒と乳幼児のふれあい交流事業に取り組み、子どもを生み育てることの大切さや楽しさを啓発するとともに、子育て家庭に対する相談・助言、交流の場や仲間づくりの機会の提供など、地域の子育て力の向上に努め、関係機関と連携し、地域の子育て支援の総合窓口としての子育て支援センターの充実を図ってまいります。

また、働く親の子育てを支援し、子どもの生活の場を提供する「親子岩児童クラブ」につきましても、引き続き開設し、健全育成に努めてまいります。

学校教育の推進につきましては

教職員が一体となり、学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価を行い、その結果を公表し、保護者や地域に信頼される特色ある学校経営の確立を図るとともに、知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能・思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、児童生徒が一日の多くを過ごす学校環境の整備を進め、教員をはじめ児童生徒がそれぞれの学校の教育目標のもと、一人一人の個性や創造性を伸ばし、生きる知恵につながる確かな学力や人との関係づくりの基礎となるコミュニケーション能力、規範意識などの倫理観、思いやりのある心など豊かな心の育成や基礎的な体力の向上を図るなど、心身ともに健康に過ごすことができるよう児童生徒の育成に努めてまいります。

新しい学習指導要領につきましては、小学校は本年度から完全実施されることから、

その確実な実施のため指導主事による指導等を含め学校への支援を図ってまいります。
また、中学校においては平成 24 年度から完全実施になることから、円滑な実施に向け、
研修体制の充実や新しい学習に必要な教材等の整備を図ってまいります。

特別支援教育につきましては、本年度から特別な支援を要する児童数の増加に伴い、
新たに特別支援教育介助員を配置し、円滑な教育体制の充実を図ってまいります。

教職員の資質向上につきましては、社会の変化に対応した使命感を自覚し、自己研修
や専門職として力量を高めるため、巡回指導教員制度の活用や校内研修の充実、積極的
な各種研究会への参加を奨励するために、平成 21 年度末をもって解散した様似町教育
研究協議会への補助に替え学校に対する研究委託費の増額を図り積極的な研修活動の支
援を図ってまいります。

児童生徒の学習につきましては、基本的生活習慣の定着が不十分なところや、自主学
習や家庭学習の習慣に課題があるため、習熟度による指導など指導方法改善のための教
員の配置を求めてまいります。

児童生徒指導につきましては、生命の大切さや他人を思いやる心、人間としての生き
方などの指導充実を図るとともに、「いじめは人間として絶対に許されない」という教
職員の共通理解と一貫した指導理念を持って、小・中・高校の連携による生徒指導など
の推進や P T A との 連携を密にし、学校内外の生活行動に配慮してまいります。

本年度から鵜苫小学校が様似小学校へ統合になります。児童が新しい環境の中で不安
なく学校生活が送れるよう配慮してまいります。

様似小学校校舎につきましては、平成 25 年度からの改築に向け基本設計をはじめと
した諸準備を進めてまいります。

社会教育の推進につきましては

支え合いと活気のある社会を作るために、地域住民が様々な活動を通して協力し、生
きがいを感じることができるよう、生涯学習機会の提供、活動支援や社会教育施設の効
果的な活用などに取り組んでまいります。

少年教育につきましては、子どもたちが親や教員だけでなく地域の 大人と関わり、豊かな体験を通して心身ともに成長していくことができるよう、「学校・家庭・地域」で連携を図り、社会全体で子どもを育てていくことを目指してまいります。

学校の教育活動を地域で支援する「学校支援地域本部」事業を継続するとともに、本年度から小学校高学年を対象に、放課後の子どもたちの居場所作りとして「放課後子ども教室」事業を実施いたします。

アポイ岳をはじめとする本町の特色ある自然や歴史は、町の貴重な 財産であり、また地域活性化や学習素材にも最適です。学習機会の提供を継続するとともに、文化財としての保護や活用に努めてまいります。

町指定文化財である等澍院護摩堂の移転改築に伴い、費用の一部を 助成してまいります。

芸術文化の振興並びに郷土館活動につきましては、自然や歴史文化、芸術を体感することのできる催しを実施するとともに、幼児や児童生徒の芸術文化鑑賞事業を引き続き実施し、芸術文化にふれる機会の提供に努めてまいります。

図書館につきましては

町民誰もが読書を楽しみ、「知る」ことの喜び、「学ぶ」ことの大切さを実感でき、豊かな心を育むため図書資料の充実や情報提供に努め、読書活動がより活発になり、日常生活や学習や仕事がより充実したものになるよう支援してまいります。

また、各種団体等の講演会や各種講座等の計画を支援し、図書館利用の推進を図ってまいります。

体育・スポーツの振興につきましては

町民誰もがいつでも身近にスポーツに親しみ、健康で明るく豊かな 生活を送るため、スポーツ・健康づくりの機会を提供してまいります。

また、体育協会やスポーツ少年団、スポーツ振興会、さらには体育指導委員など、体育・スポーツ活動をバックアップする関係機関との、さらなる緊密な連携を図るととも

に、スポーツ施設の効果的活用と体育・スポーツへの積極的な参加を奨励してまいります。

様似・浦河高校の再編につきましては

昨年９月に北海道教育委員会は、平成２４年度に生徒の学習環境の充実を図る観点から様似高校と浦河高校を再編し、新設校の学科を「総合学科」とすることを決定したところであります。

このことから、様似町の保護者の要望を、新しい学校設立準備委員会や関係機関へ要請を行なってまいります。

以上、平成２３年度の教育行政を執行するにあたり、所信と主要な方針を申し上げました。

様似町教育委員会といたしましては、子どもたちの心身ともに健やかな成長を願うとともに、町民一人ひとりが生き生きと学び続け、豊かな人生を送ることができる生涯学習社会の実現に取り組んでまいりますので、町民皆様並びに議員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。